

株式会社

ブイ・アール・テクノセンター

所在地:岐阜県各務原市テクノプラザ 1-1  
業 種:研究開発、人材育成、テナント事業  
T E L:058-379-2277



## 3D技術を応用したステレオカメラの開発

組み込み技術に優れた岐阜県情報技術研究所へ評価を依頼。

ステレオカメラを用いた距離計測技術や立体映像技術は製造業などで活用され、先端医療や福祉機器などへの応用も見込まれている。

### 本業の動向について

岐阜県の第三セクターとして地域産業の活性化を目的とした事業を行っている。業務内容は主に技術開発室、人材育成、通信インフラ(プロバイダー等)、新製品の開発を目的とした研究開発など。

全国的に見た産業は不況だが、その反面生き残りをかけた中小企業の設備投資や新規事業開拓、海外進出に力を入れており、利用者は多い。また、失業者の雇用対策や人材育成部門にも注力している。

### 公設研究機関との連携事業について

#### 連携先公設研究機関の名称

岐阜県情報技術研究所

#### 所在地

岐阜県各務原市テクノプラザ一丁目 21 番地

#### 連携内容

ステレオカメラ映像高速送信組み込み制御の開発に取り組んだ。同機関には主に評価の面を依頼していた。2009年度のこの事業では、自社より5~6名程を担当に置き取り組んだ。

#### 連携した動機やきっかけ

同機関が組み込み技術に長けた機関であったことが評価依頼を提案した一番の理由である。また、施設の場所が自社と近かったということも一つの利点だったと言える。

#### 連携の効果

第三者的な公正な立場で性能、品質について情報に基づいた評価を得られるため、更なる改善のために大きなプラスとなった。

#### 連携して最も効果のあったこと

論理的な品質評価を得られたこと。

#### 連携して最も困難だったこと

6~7年前の公設試験研究機関利用当初は書類等の準

備の手間もあったが、現在は比較的スムーズに進められるようになっている。

#### 連携するメリット・デメリットについて

メリットとしては、性能改善の為に品質評価に長けているため正確なデータを得られること。また、第三者的立場での判断を期待できること。

デメリットとしては、どの程度まで機関に頼った研究ができるのか不安な点があること。

#### 連携に際しての注意、アドバイスなど

公設試験研究機関が製品開発などの最終段階までをすべて手がけているわけではないので、どの程度まで依頼ができるかを最初に明確にしておき、効率よく利用することが大切。

また、案件によっては予算や期間が限られてくるものもあるので、調整力も必要になる。

### 公設研究機関との連携で行政に望む支援

2~3年のサイクルで研究担当者が代わってしまうケースが多い為、開発がスムーズにいかない場合がある。可能であれば研究内容がまとまるまでは一貫して取り組んでもらうことが望ましい。

#### 会社概要

設 立:平成5年

資 本 金:23億円

従業員数:21名

U R L : <http://www.vrtc.co.jp/>